

ノーサイド

北原 巖 男

たと書いています。鳥飼玖美子さんは、同時通訳や英会話講座、英語教育、異文化コミュニケーション等で活躍して来られています。長くなりますが、紹介したいと思います。

曰く

「・・・テレビ画面では、「津波」「避難」とある漢字にルビがふられ、やさしい日本語で「つなみ」に

1月23日付け、日本経済新聞夕刊「あすへの話題」欄。立教大学名誉教授の鳥飼玖美子さんが、「震災と多文化共生」と題して、能登地震発災時に発せられた「大津波警報」を伝える各局のテレビ画面を取り上げ、過去の大きな震災では多数の外国籍住民に情報が届かなかった教訓が生かされ

英語ではEvacuationと表示され、Tsunamiと書かれた後に副音声やラジオで英語の説明が聞けるとの案内も出た。

過去の大きな震災では、多数の外国籍住民に情報が届かなかった。英語を理解

た。書いています。鳥飼玖美子さんは、同時通訳や英会話講座、英語教育、異文化コミュニケーション等で活躍して来られています。長くなりますが、紹介したいと思います。

「・・・テレビ画面では、「津波」「避難」とある漢字にルビがふられ、やさしい日本語で「つなみ」に

しない人も多い在住外国人にとって共通語である「やさしい日本語」での情報提供が必要だと判明し、NHK放送研究所では「やさしい日本語」でどうニュースを伝えるかの研究を始めた。「やさしい日本語」が画面上で使われたのは、過去の経験を生かした成果だったように思う。

やさしい日本語

「やさしい日本語」が画面上で使われたのは、過去の経験を生かした成果だったように思う。

石川県には約1万7000人の外国人が在住。多くはベトナムや中国出身。日本全体でも国籍の上位5カ国は、中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルである。

グローバル化は海外だけ

もコロナ以前のレベルまで戻りつつあります。そうした彼らにとって、緊急事態発生時の伝達情報を日本国民と同じように受け取り、その内容を正確に理解し、かつ速やかに適切な行動に移ることが出来ることは、死活的に重要です。今回の能登地震は、改めて

マスコミはもちろん、自衛隊・警察・消防・医療等の政府関係機関、全国の自治体、関係企業・団体等が、あなた自身が選ぶとすれば、どんな「やさしい日本語」になるでしょうか。例えば、緊急事態発生は・・・?

ふと作家井上ひさしの有名な言葉が浮かんで来ました。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいに、ゆかいなことをまじめに書くこと・・・」

「やさしい日本語」を使うことは、決して易いことではない、むしろ難しい。そんな思いを、「内なるグローバル化」が進む身近な日常生活・社会生活での体験を通じて抱いている自衛隊員・ご家族・本紙読者の皆さんも多いのではないで

北原 巖男(きたはらい わらお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事